

# 絵画製作の心理

諸問題をめぐって



角 尾 稔

## 〔なんのための絵画製作か〕

われわれは、幼児に絵画製作をやらせるが、いったいそこから何を期待しているのだろうか。幼児教育は、義務教育以前のことではあるからなおさらのこと、画家や彫刻家や建築家を養成しようというような目的でないことは明らかだ。また、戦前のように、絵画製作を「芸能視」して、「何か芸<sup>ぎ</sup>ごとを身につけておくことが……」といった観点から、絵画製作の指導をしているのでもないことは言うまでもない。

では、何を目的としているのだろうか、ということになると、ばく然と「人間形成のために」といった公式的な答にぶつかる。しかしこの、あいまいなことのばの内容は、人によってとり方がちがう。従って、幼児の絵画製作活動の見方も違うし、絵画製作の指導の方法も違うし、評価も違うのである。

そこで、「人間形成のために」ということは、どんな点に重点がおかれなければならないかを考えてみる必要がある。とくに、いわゆる読書算といったものの教育との違い、また同じ芸術といわれる分野でも、音楽、リズムなどの教育との相違をはっきりとさせることがたいせつだと思う。そうすることによって、絵画製作でなければなしえない人間形成の分野、絵画製作でこそ進めやすい人間形成の側面がはつきりしてくるのではなからうか。その上絵画製作と幼児期との関係を明確にしていくことによって、幼児期における絵画製作指導の意義や必要性がはつきりしてくるのではなからうか。

面倒なことになってきたが、この点はこのあとに続く問題と密接につながることでたいへん重要なことだと思う。

絵画製作による人間形成といっても、人によって重点のおきどころが違うわけで、

(1)腕を器用にさせる

(2) 物事を正確に認識させる

(3) 思考力を育てる

(4) 社会性を育てる

(5) 美的感覚を育てる

(6) 感覚器官を鋭敏にする

(7) 造形の文法を理解させ造形能力を育成する

(8) 創造力を育てる

などいろいろあげられよう。ここにあげたものうち、(1)はかなり古い美術教育がねらっていたと思われるもの。(2)、(3)、(4)は、新しい絵の会などがとくに主張しているところ。(5)、(6)は戦前からあった感覚訓練を中心に考える人たちのとくに主張するところであり、(7)を中心として(3)、(5)、(6)を合わせて考える人たちに造形教育センターの主張があると考えられ、(8)は創造美育の人たちが重点をおくところである。

幼稚園教育指導書、絵画製作編では(下段のカコミを参照)五つの目標を掲げている。だが、そこで述べられている「これらの目標は個々別々なものではなく、互に有機的な関連をもって深く結びついているのであるから、常に全体として考えなければならぬこと」<sup>1)</sup>はいいとしても、「いずれの項目にも軽重がない」ということは、絵画製作教育の歴史的な偏向と、幼稚園の現状を考えるならば、もの足りなさを感じないわけにはいかない。

幼稚園教育指導書の目標

- ① 絵をかいたり、物を作ったりすることを通して表現に対する興味をもたせる。
  - ② 自分の考えや気持を、絵画製作で自由に表現することの喜びを感じさせる。
  - ③ 造形的な活動を通して、身近にある形や色などについての造形感覚を伸ばさせる。
  - ④ 身近にある美しいものやことが見ることに興味をもたせる。
  - ⑤ いろいろな表現材料や用具を使うことを経験させる。
- ここに注意しなければならぬことは、これらの目標は個々別々なものではなく、互に有機的な関連をもって深く結びついているのであるから、常に全体として考えなければならぬこと、およびいずれの項にも軽重がないことである。

つまり、わたくしは、これら五目標の中で、②の自己表現の喜びを感じさせることは他の四つに比較して、特別の意義を感じないわけにはいかない。自由に表現する喜びを離れた①の表現に対する興味は模倣の表現や塗り絵の活動などに見られるものであり、自由に表現する喜びを忘れた③の造形感覚を伸ばすことはかつての感覚訓練式のものになってしまう。五目標を全体として考えるべきことに異論はないし、どの目標もたいせつなものはあるが、とくに②は重要な目標なのだといいたい。

〔発達研究からパーソナリティ研究へ〕

幼児の絵画製作活動の発達を考える際に、絵画製作のどこに着眼

して発達をとらえるかが問題である。

かつては、手先の器用さ、目と手の訓練といった点が重視されていたために、幼児の絵画製作の発達を、実体にどれだけ近い表現をするか、という観点からとりあげていた。つまり立方体や円錐形を写生させたり、手本を与えて模写させて発達のな変化を追ったものである。研究の方法は、前世紀の末頃からたぐさんの子どもの絵を集めて、統計的に処理する方法がとられ、今世紀のはじめには、ひとりあるいは少数の子どもの変化を追う発育史的な研究が行なわれた。

絵画製作が、個々の子どもの精神的所産として考えられるようになるにつれて、個々の子どものパーソナリティとの結びつきに着眼するようになってきた、それは有名なグッドイナフの人物画による知能の測定にはじまるといってよい。これはわが国でも桐原葆見、丸山良二氏らの研究がある。

絵画製作の目標が、「絵画製作を教える」立場から、「絵画製作を通しての教育」に移ってきたし、また、心理学の関心も、知能からパーソナリティに移っていったこともあいまって、絵画製作もパーソナリティ研究の手がかりとして考えられるようになってきた。

はじめは、研究の困難さの故もあってか、課題画による人格診断がさかんであった。人物、樹、船、家、動物といったものが、課題として与えられ、この課題にもとづいてかかれた絵からパーソナリ

ティ診断が行なわれた。またベンダーによって手本を与えてその手本の模写の際にあらわれるみだれから、精神病の診断を行なうこともはじめられた。

こうした過程のうちに、子どもたちの自由画に対しても、その子どものパーソナリティとの関連のもとに研究する学者があらわれた。有名なアルシュローとハトウィックの幼児の絵とパーソナリティに関する研究があるし、シャルロット・ピューラーは、子どもの問題と教師の著作の中で、さかんに子どもの自由画をその子どもの当面する課題、将来に対する希望を診断する手がかりとして使用している。

幼児の絵画製作についての心理学的な研究には、表現様式の変化を追っていくような発達研究教育計画の重要な基礎であるし、日本の子どもたちの研究は、非常に少ないのであるから、今後大いに検討していかなければならない。それと同時に、今日の絵画製作の教育的意義やその目標が変わってきたことに照らしてみても、幼児のパーソナリティ、精神衛生との関連のもとに絵画製作を研究することが大いにさされていかなければならないものと思う。

### 〔指導過程の研究〕

「教育心理学」という領域が、心理学の中にあっても、各教科の心理ということになるとたいへん手落である。まして、芸術教育の領

域のしかも指導過程の研究にいたっては、手がつけられていないといつても過言ではない。

指導過程の研究は、なかなか困難な問題ではあるが、とくに絵画製作の指導の過程は今後大いに力を注いでいかなければならないと思う。つまり、絵画製作の指導の際に、導入のいかんによって、どのような表現の上での変化が見られるか、とか、また作品に対する教師ならびに教室での扱い方のいかんが、その後の、子どもの絵画製作活動にどんな影響を与えるものであるかといった点についての研究とか、表現の材料を変化させることが、どんな影響を個々の子どもに与えるかといった問題などが、どんどんあきらかにされていってほしいところである。

このような研究は、現場で保育に当たっている人の力なしには決して進められるものではない。ところが、とかく現場は毎日毎日の保育内容と事務処理に追われがちであるし、研究の意欲のある人も、このような問題が、絵画製作指導の上で大きな問題であることに気が付かれていないのは残念なことである。

### 〔作品の見方、評価の問題は〕

さて、以上にあげたいいろいろの問題についての研究を進める上に、とかく障碍になるのは、作品の見方・評価の問題である。

これについては、保育者養成のための施設の教育内容に問題があ

るのである。つまり保育者たらんとする学生達に、まずその学生達の技能を磨くことが必要だとして、専門的な描画や工作彫塑の指導はなされていても、肝心の幼児の絵画製作自体の研究することに欠けている。しかも、今日の美術教育のあり方といったことにも理解が薄いために、保育者となっても幼児の作品に対する見方、評価のし方がどうしてよいかわからない状態であることが多いのである。従って、幼児に自分が修得した技術を一方的に注入することにばかり気をとられ、幼児が、たとえ一見稚拙に見えるような作品の中にも、幼児自身の思考や感情や愛に満ちた作品をつくっていることを見のがしてしまうことが多いのである。フランツ・チーゼックが、芸術家としての子どもたち」として子どもたちの芸術に注いだ態度が、保育者の中に生きていることが非常に少ないのだといつても過言ではなからう。

そこで、つまるところ、子どもの絵画製作の研究が欠けているのである。新しい絵画製作のあり方を十分に認識して、その上にてば、子どもの生活の理解と絵画製作との関連の問題が浮かび上がってくるに違いないといえよう。個々の子どもの理解と並行して、その子どもの絵画製作活動に目を注ぎ、その子どもの生活やいろいろの指導方法の違いと作品との関連をじっくりと把んでいくことを現場の保育者に願って止まない次第である。

\* \* \*